（別添資料１）

事業所名　SMILE MOVE KURA

支援プログラム（参考様式）

作成日　令和7 年　3 月　1 日

法人（事業所）理念	感謝の輪を広げ「ありがとう」が溢れる社会を実現します				
支援方針	自分で「できる」をいっぱいに				
営業時間	10 時 0 分から 19 時 0 分まで		送迎実施の有無	（あり） なし	
	支　援　内　容				
本人支援	健康・生活	『生活の基礎』『予定の可視化』 スケジュールを可視化し、メリハリのある生活を身に着ける。 サーキットなど決められたものをルーティン化し、基礎体力や体の使い方を日々の生活の中から学べる機会を作っていく。 サーキット、スケジュールの可視化、外遊び、係活動、振り返り			
	運動・感覚	『継続は力なり』『体の使い方』 身体を動かして運動するだけでなく、手足の感覚刺激や目でみた感覚など様々な方法を通して楽しみながら身体の上手な使い方を知ることができる。 また、ボディーイメージの形成をし長く座っていられる力を養う。 サーキット、なぞり絵、音読、視写、粗大運動、微細運動			
	認知・行動	『自分のことを知る』 視覚、聴覚、触覚などの感覚の発達を促すため、様々な場所の設定をしそれぞれでの場所での目的を自分で理解することができる。 感覚や行動の概念を知ることで、自分の行動を考え直す力を育む。 音読、聞き取り、カルタ、作文、色や形を使ったおもちゃ、ブロック			
	言語 コミュニケーション	『聴く力』『伝える力』 人の話を聞く時の姿勢や適切な表現方法を知る。 遊びを通して、必要な情報を判断する力やその場に応じたルールを身に着けられるようにしていく。 音読、聞き取り、カルタ、作文、集団活動、係活動			
	人間関係 社会性	『相手のことを知る』『SOS』 色々な人と関わる中で、自分と違う意見があるということを知る。また、仲のいい友達を作り、困ったときに「たすけて」が言える環境作りをしていく。 集団活動、外出支援、余暇時間			
家族支援	面談などを行い、学校やご家庭での様子を伺う中で、困り事や先を見据えた支援の共有を行い、共に考えていける場を設ける。		移行支援	進級や進学、事業所の併用の際などに際して、助言や支援を行ったり、関係者との情報共有や連絡調整を行う。	
地域支援・地域連携	日ごろの挨拶や交流を心掛け、地域の方に事業所を認知してもらう。また、地域のイベントなどに積極的に参加し、障がいの有無を超えたふれあいの機会が得られるように努める。		職員の質の向上	特性を理解し、利用者の気持ちに寄り添える姿勢で支援を行えるよう企業内研修や外部研修などに参加できる機会を設けている。	
主な行事等	季節ごとの行事：夏祭り、バーベキュー、クリスマス会、節分、卒業生を送る会など、季節を感じられる行事を利用者と一緒に企画していく。				